

常務理事の就任にあたって



興石 逸樹

本年6月20日の定時社員総会において新設ポストとしての常務理事に就任しました興石逸樹と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

当協会は昭和40年に鉄道の海外技術協力を担う団体として設立された60年の歴史ある組織であり、このように伝統ある組織の一員として業務に従事できることを心より光榮に存じております。

初めてご挨拶する会員の皆様に自己紹介をさせていただきます。私は、土木工学科を卒業後、最後の一括採用が行われた昭和60年に国鉄に入社し、分割民営化後、J R東日本において土木構造物に係るメンテナンス業務、耐震補強対策、防災対策事業、線路保守業務を中心に設備部門のとりまとめ、支社運営業務を経て、直近ではJ R東日本の人事関係子会社にて人材育成の業務に従事して参りました。

当協会においては、現在、安富会長ならびに志村理事長の下、公益的・非営利団体としての特性を活かし、「海外」、「鉄道技術」、「人材」という三つのキーワードを軸に新たな事業展開を推進しております。具体的には、鉄道技術に係る海外への情報発信事業、海外からの情報収集事業に加えて新たに人材育成・マッチング事業を展開するとともに、インド高速鉄道(ムンバイ・アーメダバード間)に係る軌道工事関係のT&C(Training and Certification)事業及び信号通信関係のSTTS(Signalling Telecommunication Technical Support)事業を進めております。さらには、本年春に閣議決定された鉄道分野における特定技能外国人の活動や今後の育成就労外国人などに関連する外国人材業務も一つの課題となっております。

これらの事業はいずれも会員の皆様、国土交通省、鉄道事業者、関係団体、関係会社等の多くの皆様のご理解とご支援を賜ったうえで、はじめて進めていくことができるものであります。当協会での活動が、海外鉄道事業の整備や品質・安全性・効率性を支える人材の育成、国内鉄道事業の人材確保などに貢献できることに繋がるよう更なる研鑽を重ねて参りたいと思います。

国内でこれまで培ってきた鉄道運行に係る多岐にわたる専門技術分野の技術、ノウハウ、マインドセットが人という繋がりを介して海外鉄道事業者との価値観の共有化に結びつき、大量・高速・安全・定時性に優れた輸送サービスである鉄道の存在価値がこれまで以上に高まり、各地域の社会経済活動の発展に貢献できることを目指して、関係者の皆様のご意見やご指導をいただき着実に業務を進めていきます。当協会の活動が国内外の鉄道関係組織を結びつける懸け橋となることを目指していきたいと考えております。

皆様方の引き続きのご支援、ご指導をお願い申し上げます。